

中央情報通信

発行日 毎月15日

大日本生産党機関紙

第1418号 令和7年4月15日号

	壊れた兵庫県議会と維新の会	本紙編集部	1
	本党名誉顧問 鴨田徳一先生逝去さる		2
	今年は国勢調査の年		2
寄稿	トランプ外交、今後の行方は	「兵庫通信」代表 村上 学	3
	平和運動団体が考えている「平和日本への道」		3
読者投稿	残された能登 その後〈第6回〉	田丸 政盛	5
	レーザー核融合の原発が誕生する		5
	一神教の「神」というキャラクター		6
	儒教が日本に与えた影響		6
	ED(勃起不全)の改善とは		7
	地方事務局活動報告		7

本 社 〒847-0871 佐賀県唐津市東大島町 19-5
電話 090-3199-8446 no.shin.7771008@gmail.com
賛助購読料 年額 3,000円(年10回発行)
ホームページ <http://大日本生産党.com/>

発行所
中央情報通信社
編集長／谷田 透

壊れた兵庫県議会と維新の会

本紙編集部

斎藤知事の不見識と非常識を発端とした兵庫県の混乱は、知事が議会から不信任を叩きつけられた時に対抗して議会を解散せず、失職して出直し選挙をすると言う姑息な手段で第二幕を迎えた。そこに、SNSの卑怯と卑劣を体現するような大衆煽動を得意とするNHK党の立花が参戦し、議会の中の裏切り者がゲリラとなって県民煽動に加わって第三幕の知事選挙に突入した。

本来は黒子だったはずの片山副知事は、ヤバくなったので辞職して逃げ出し、知事にも「一緒に引退して逃げよう」と誘っていたと言う噂も立った。知事が引退を拒んだので一人で沈没寸前の船から飛び降りたが、NHK党の立花と連携する維新の会の裏切り者たちが議会の百条委員会に潜り込んで情報収集し、それを立花に漏洩して拡散させていた。

百条委員会で斎藤知事を厳しく追及していた議員は、立花たちのSNSで拡散された煽動によって知事を追及していた議員を脅迫して辞職させ、辞めた後も家族に危害を加えると脅迫を続けて自殺させた。

片山副知事も百条委員会に呼びつけられて証言する時に、内部告発を出していた県民局長の不倫ネタなどを盛んに吹いて、自殺した県民局長に全部の原因をなすりつけようとした。



これらが全て表沙汰となって、第四幕が開いた。第四幕では、県議会の維新の会から岸口、増山、白井と言う裏切り者たちが矢面に立たされ、全会一致で決められた知事への不信任決議を嘲笑うかのように立花と手を組んで議会決議を踏みについた。自分たちも知事不信任に賛成していたのに、あたかも反対していたかのような裏切りを見せ、内部の秘密情報などを外部の立花などに流し続けていた。

これに関して、維新の会の吉村代表は「気持ちには分かるがルール違反だ」とマスコミに答えたが、裏切り者たちのどんな気持ちがかかるのか説明は無かった。同類と言う意味だと国民に感じさせて、「維新の会はそんな政党だ」と宣言したことになる。

維新の会の創設者で初代の橋下はテレビ番組で、「兵庫維新の会は解散するべきだ」と断言した。この意味は非常に大きく、維新の会は当初の政党理念や創設趣旨とは無関係な政党に変質している

ことを証言した事になる。大阪府における「同和利権」「暴力団利権」を構築していたそれまでの行政幹部と自民党長老たちを打倒し、府民の利益を守ろうと橋下は知事選に立候補し、当選して改革を一気に進めた。解放同盟や同和ギャングたちは震撼し、組んでいた議員たちも次の選挙では落選した。維新の誕生は、こうした経緯があった。関西には「親しんど、子楽、孫乞食」と言う言葉がある。親がしんどい思いをして苦労して作った商売を、引き継いだ子供は楽をして優雅に暮らし、その散財のせいで孫は乞食になるという言い回しなのである。維新はまさに、この故事に当たっているだろう。

自治省から天下って来た自民党系知事が長期政権を続けてこられたのは、兵庫県議会や野党勢力との円満な関係で「県民優先」を暗黙の了解事項にしてきたからである。例えば日教組は右派と左派に分かれているが、兵庫県教組では「官僚派」と悪口を言われるほど体制側と一体で事業を進めていた。石井、杉田、本岡と言う三人のリーダーが、何でも反対では組合員が困ると決断して、知事や自民党と握手していた。

兵庫県では、このような歴史が続いたが、質的な劣化は激しくなり、コロナの社会変革は一層の拍車をかける結果になった。ネット依存の県民性も、このコロナ禍での悪質な変化の一面だ。その変質した精神性の中で行われる選挙では、候補者も有権者も以前とは違ってきた。

「悪貨は良貨を駆逐する」と言う言葉があるが、社会はまさに今、悪貨に良貨が駆逐されようとしている。良貨は、それが当たり前だとする良識の上にあるが、ずるく儲けようと考える悪貨は、それを如何に騙して儲けるかを目的にする。純度が八〇%の金貨が当たり前だった時代に、鉛を混ぜた純度五〇%の金貨を作って流通させると言う意味である。もう誰も、金貨の純度が八〇%あるとは信じなくなるのだ。こうして金貨の価値も国の信用も無くなって行く。今、その曲がり角に立っているのだ。悪貨の手招きに気付かず角を曲がれば、取り返しつかない「不信」と言う地獄へ行くことになるのだ。この度の三文芝居の第五幕は、果たしてどのような場面から始まり、どんな終幕を迎えるのだろうか。

本党名誉顧問 鴨田徳一先生逝去さる



大日本生産党第四代党首にして、現名誉顧問であられた鴨田徳一先生が、去る二月十七日、京都市伏見区の自邸に於いて幽明境を異にされました。享年一〇三歳。

大正十年十月二十日、香川県生まれ。

昭和十四年、大道塾（河上利治塾長。後年、生産党第三代党首）に入塾。昭和二十七年、京都に同じく河上氏が設立された赤化防止団の事務局長。二十九年、大日本生産党再建と共に中央執行委員、河上党首秘書。四十一年、河上党首の逝去に伴い党首代行委員長。四十六年、第四代党首に就任。

平成三年、北上清五郎氏に職（第五代）を譲り、最高顧問へ。以降永く後進の指導に当たって来られました。令和三年、結党九十年大会にて名誉顧問に就任。

国家、民族を語る際は舌鋒するどく常に熱情にあふれ、教えを授ける際には、優しく噛み含んで私ども党員が納得するまで慈顔を絶やさずに説諭して下さったことが忘れられません。

慎んで御霊の安らかならんことをお祈り申し上げます。

今年は国勢調査の年

国勢調査は五年に一度の実施になっており、今年はその年である。我が国の国勢調査は正確だと国際的にも評価は高いが、それを実施するのは只事ではない。

国勢調査は国が胴元だが、実施は市町村自治体の仕事になっている。つまり国から丸投げの形なのだが、これも無理が来ていると自治体では話題になっている。

神戸市を例に挙げると、国勢調査員は臨時雇いの地方公務員と言う形を取って登録させるが、守秘義務の署名をさせるのに「臨時公務員」と言う身分証は発行していない。通常の考え方なら、首から公務員の身分証をぶら下げて自治体名が書かれたジャンパーを着て、二人一組で調査に回らせると思うのだが、そうではない。

市役所と区役所が窓口で調査員を募集して登録し、約五〇世帯を一ブロックに分けた地図を示して「調査エリア」

を指定し、「出来るだけ二ブロック以上の調査」

を依頼する。留守宅や居留守、日本語が話せない住民等の区別も書き込むのだが、チャイムを鳴らすのは三回までとか、再訪問は三回までとか、決まりごとが多い。ギャラは一ブロックを調査して報告書を作成し提出して四万五千円となっている。一見すると良いギャラに見えるが、営業や選挙で戸別訪問をしたことのある人なら分かるだろう、家族構成や仕事などの個人情報聞き出すのが如何に大変な事かは言うまでもない。

現状では、自治会が存在しない地区は約半分あり、老人会や婦人会なども二割程度しか存在しない。青年団など希少価値である。消防団は辛うじ



て全地区に定数こそ満たしていないが存在し、これも風前の燈火だと嘆く声も聞こえてくる。

全国的な国勢調査の実態は不明だが、どこも神戸市と似たり寄ったりの現状だろう。一般人が知らないこと自体、国勢調査が国の責任放棄だと悪口を言われても仕方ないことだと思うが、本来なら市役所や区役所で「臨時公務員採用」を行い、それから国勢調査員の任命を行い、真つ当な行政事務として行うべきものではないのだろうか。

神戸市では、応募が足りない時には自治会役員などに半強制的に押し付けることになっていると言われている。単にギャラにつられて応募しても、調査項目が何一つ判明しないようなら即刻クビになりギャラも支払われない。国勢調査は重要な国家の統計資料であることは間違いないので、政府はもう少し責任感と融通性を以てこれに当たるべきだろう。

国勢調査と偽って個人情報を集めるヤミ業者も存在しているので、これは大変な仕事である。

警察署の地域課が行う調査でも、制服を着て警察手帳を見せても話もしない人が増えてきたと言うことだから、臨時雇いの国勢調査員など、門前払いが半分ぐらいになると考えても不思議ではないだろう。ひと昔前には、交番の巡回連絡簿には管内の全世帯の情報が網羅されていたと言うが、今では交番も再編成され、巡回連絡簿は新しく書き換えられることの方が少なくなっている。そんな時代なのだ。とにかく、今年は五年に一度の国勢調査の年であり、お手並み拝見ということにしたい。

稿寄

トランプ外交、今後の行方は

「兵庫通信」代表 村上 学

トランプが米軍の経費を相手国に対して「保護料金」「保険経費」という言い回しを使って、日本、韓国、台湾にプレッシャーをかけている。中共解放軍が先制攻撃で奇襲ゲリラを送り込んでくるかもしれないぞ…という脅し文句も忘れていない。韓国では、反軍の民主派を中心に「米軍基地は出て行け」とデモを繰り返しているのを馬鹿にしたように、北朝鮮は「ソウルは一日で落とせる」と揺さぶりをかけてくる。米軍は、在韓基地はグアムに移すと宣言し北朝鮮に塩を送っている。韓国は「トランプに倍額の保険代を払うべきか」と目下の話題だ。台湾も日本も、状況は似たようなものだが、辛うじて日本は「米軍の最新軍事技術を供与するから、アメリカ軍需産業を迎え入れる」と言われており、型遅れの旧式装備はフィリピンやインドネシアに寄贈することで「対中包囲網」を作る手伝いをして、トランプのご機嫌を取った。トランプ外交は「ヤクザのミカジメ営業」などと嫌われているようだが、目に見えている「対中防衛」の問題とは別に、米軍の保険代金で揺さぶる裏で間接的に「保険料免除」のイスラエルを助けるための狡猾な作戦があるようだ。



心してアラブで生きて行ける。ウクライナからのアメリカの撤退は、ロシアに勝利を譲るのではなく、中国共産党を唯一の敵と認定して戦力を再構築する準備だとアピールする意味がある。北朝鮮が核開発とミサイル実験を繰り返しているのもトランプ戦略の一環で、北朝鮮を怒らせると北京に核ミサイルが飛んで行くことをブーチンもトランプも止めないと言う意味がある。

ロシアがウクライナで使った極超音速ミサイル「オレシニク」は、地下数百メートルの基地を破壊する現在世界最強のバンカーバスターであり、アメリカの技術でも迎撃不可能と言うことになっている。山脈の地下深くに数百キロにわたって核施設とミサイル基地を持つている中共は、トランプとブーチンが握手すれば「オレシニク」が武漢へ飛んでくると覚悟しなければならない。そうなれば、トランプの路線で武装強化した日本、韓国、台湾、フィリピン、インドネシアが大挙して中共を攻撃する。中共がそのなる未来を変える為には、習近平が引退するかトランプに屈服するか、道は二つしかない。

ウクライナのゼレンスキーの暗殺は、既にウクライナのマフィア組織が請け負っている、ゴーストサインを出すかどうかはロシアのラブロフ外相の腹一つらしい。フランスとイギリスがいくら力をぶを見せてゼレンスキーを守ると言っても、ロシアから亡命した人たちを国内で暗殺されている両国には、何の説得力も無い。EUもNATOも、人権と平和しか宣伝文句が無い左派に国を明け渡したツケが回っている。日本も韓国も台湾も、EUを他山の石として、左派の売国奴に政権を渡すような愚行を犯さないように注意すべきだ。

トランプショックと言うが、ショック療法が有効な場合には、躊躇なくショック療法は試すべきである。

平和運動団体が考えている「平和日本への道」

ピースボート共同代表の川崎哲が「ビッグイシュー四九六号」のインタビューで、平和への準

備をしようと言う訴えをしている。彼の肩書は、ノーベル平和賞のICANN国際運営委員兼会長、

核兵器廃絶日本NGO連絡会共同代表、一般社団法人核兵器を無くす日本キャンペーン専務理事、日本平和学会理事、ピースボート共同代表など、平和を商売にしている「平和屋」である。最近の日本人は信用しやすい人が多いが、疑い深い人にとっては平和を売り物にしている連中はいかかわしいと感じるだろう。平和は、獲得する為には命懸けで戦わねばならないことはガンジーを見るまでも無い。命懸けで自主的に戦っていない運動家は信用しがたい。

しかしICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン)は二〇〇七年に設立して二〇一七年にはノーベル平和賞を受賞している。つまり国際的には「平和屋」の仲間たちが大きな実権を握っていると言ふことらしい。

日本では、二〇一四年には集団的自衛権の行使容認の閣議決定があり、敵基地攻撃能力の保有に進むことになっている。防衛費も増額で、戦争できる能力を準備する方向に日本は動いている。「平和屋」はすぐに保守系を「戦争屋」と罵るが、いざ有事の時には責任を取らないのが「平和屋」の特徴だと知っておかねばならない。加えて「戦争屋」は手のひら返して逃げる連中が多いのも知っておくべきだ。

さて川崎哲は日本の現状について、岸田政権時代から軍事力信仰が強く、核兵器禁止条約にも参加していないと怒り、「軍事力中心主義や抑止力神話、日米同盟一辺倒から脱却し、日本国憲法の基本原則、平和的生存権に立ち返り、市民社会と国連の連携で多国間の安全保障と言ふ異なる道を歩む必要性」を力説する。

じっくり考えねばならないのは、ジェンダーフリーと叫んで「女性比率を高めろ」と叫んでいる活動家は、一九七〇年代のウーマンリブ運動を戦っていたピンクヘルメットの女性たちの事は知らないかもしれないし、まして市川房江の婦人参政権獲得運動など歴史資料でしか知らないだろう。段々運動が軽くなり、運動家が命を狙われることも少なくなっている。市川房江は命懸けで運動していたが、その秘書だった菅直人は福島原発の暴走を、何の指示も出さずに喚き散らして眺めていただけで、後日に自衛隊のヘリで上空から視察すると宣伝した時には、自分の席を鉛で囲んで放射能を遮断しろと命令した。そもそも命懸けの市川房江の後継者を名乗る資格は無かったのである。その彼を支持し



た新左翼系の人々は、結局「類は友を呼ぶ」と言うことで、口舌の徒ばかりが「…運動をしていた」「…組織にいた」などと先駆者の揮で相撲を取るだけのものである。

利用価値も薄れ、資金力も権力も小さくなっている国連は、それでも世界最大の国際機関なのである。意見集約も出来なくなってきた国連には、悪い国家指導者を罰する力も無く、国連決議で世界を引っ張る力も無い。産油国や共産国の資金で、国連本部の「NGOフロア」に事務室を借りることで、自分たちを国連機関だと世界に誤認させたい連中が巣窟にしているだけの巨大ビルかもしれない。三千人以上の職員は、どこから給料を貰っているのか知られていない。いくら支払えば、その組織からインターン生を送り込めるのかも知られていない。国連とは、その程度の存在に墮落しているようだ。

ロシアがウクライナに有無を言わず戦争を仕掛けたことを考えれば、とくに国連安保理事事は無用の長物だろう。パレスチナ過激派のハマスが、突然イスラエルに攻め込んで一般人を一〇〇人以上人質にした事件を見ても、国連人権理事会は解散した方がよい。そんな延長線上にノーベル平和賞があるらしいので、もはやノーベル平和賞も廃止する潮時だろう。

平和は尊いし、戦争は醜い。これは紛れもない事実であるが、戦争を起こさず、平和を築くことは極めて難しいことだ。憲法九条を大声で叫んでも平和にはならないし、無謀な戦争を仕掛ける指導者に平和を説いても戦争は止まらない。どうすれば良いかは、ケースバイケースだが、「戦争屋」と「平和屋」が大きな顔をして飯を食っている間は世界は不安定である。

平和運動団体と言うのは、日本が平和であり続ける為には何をすれば良いのか提言だけは熱心だが、残念ながら実行は伴わない。国民に訴える、世界に訴える、と言って資金集めしている姿を見ると、同じように資金集めが運動の目的と化している「中国民主化団体」とダブって見えてくる。国連に過大な評価をする所も似ているし、国際的な受賞をして格を上げれば目的の半分達成と考えている所も似ている。我々は余りにもお人好し過ぎるので、資金集めが伴う運動には、平和運動であつても距離を置いて見て行く方がよい。

今回は、僭越ながら私も夫婦の住宅に、このたび公費解体の要請が突然出された件について経緯を伝えたい。

まず、現在の家は住宅に困っている人に斡旋する社会福祉法人が、不動産業者に物件探しを依頼し、その業者が近所の土建屋に売却した物件。それが我が家である。

元の持ち主は、地元の女性町議の母屋とのことだった。老朽化により、売物件として不動産業者と持ち主は売れずにいたため、やむなく持ち主はベトナム人夫婦の寮として使用していた。ひどいばら家だがあづま家造りの古民家だ。



私が来た当初から、不動産業者や持ち主はこれを解体したがっていたが、解体費用が高いことが頭痛のタネであつたらしい。そんな折、昨年の地震発生である。半壊公費解体対象、降って沸いた話である。自費では一千万円は掛かる見積もりなので、彼らとしてはこれを逃がす手は無い。

ここからが本題だが、「生活困窮」及び「保護

世帯」おまけに「在宅避難者」である私達の処遇をどうしたものか…という話になる。解体の話は、この三月に知らされ五月中解体の段取りだと言う。私達には寝耳に水である。

上記の住宅斡旋社会福祉法人からは連絡無し。不動産業者は急遽入院とかで音信不通。持ち主の土建屋は「ウチは不動産屋じゃないので」と逃げ腰。役場は責任者不在とかで連絡無しで、保護担当は「あくまでも自主的に進退を決めてほしい」とやり過ごす。

私は県、弁護士相談、町営住宅…と渡り歩き、いずれも話は聞くが何もしない点では同じであった。

私もここに来る前は交通事故で怪我、家内は心身の負担から片方の聴力を失った。去年の家の誕生日には少しでも気を紛らわす為、SONYのウォークマンでも贈りたかった旨、伝えたいが想い届かず耳に入らず空回りである。三十年夫婦でも意思疎通ままならぬもの。高度経済成長で米国によるジャパンバッシングの経済戦争を知る世代には世界の憧れのメイドインジャパンも斜陽から久しい。震災復興の傍らにいる私達から見れば過去の栄光はほぼ無いと言えるこの頃である。

能登には今日も無情の風が吹く。

レーザー核融合の原発が誕生する？

大阪大学の研究室と大阪の新興企業が開発した「レーザー核融合」の原子力発電装置が、どうやら新型原発として実用化できるレベルに達しているらしい。

物理学に詳しくないのでよく解らないのだが、これは凄い事なのだろう。超小型の施設で、現状の大規模原発に匹敵する電力が作れるようになると言われている。実験施設の建設に大手銀行も商社も、政府系金融機関も融資してくれなかったもので、大阪の某信用金庫が全面的融資を行って動いている。心細い話だが、この信用金庫が中国に買収でもされたら、このレーザー核融合の原発技術は中共に流出してしまうことになる。

戦時中にも、日本では八木アンテナが開発したレーダー技術を軍部の頭の堅い幹部たちがボロクソに批判し、その技術はアメリカの企業に買い取られた。結果は言うまでもない。同じことが再び起こるかもしれないことを、日本政府は理解しているだろうか。



中共解放軍では、大型艦船の甲板で原子力発電電が出来るようにする十年計画を立てているが、その為の必須技術がレーザー核融合発電だと言われている。どこにでも移動できる原発を持つことが、軍事戦略的にどれほど大きなメリットであるかは論を俟たない。日本のような自然災害が多い地域では、災害救援・復興には欠かせない技術だろう。これを災害復興や砂漠の開発に利用すれば、日本が世界をリードできるはずだ。地球温暖化対策にも、この技術は欠かせないのではないか。

レーダー技術を馬鹿にして、それをアメリカに買い取られた結果が「自分で自分の首を絞めることになった」のだという過去の過ちを真面目に検証するならば、レーザー核融合の超小型原子力発電装置は官民一丸となって「オンリージャパン」と世界中に宣伝したいものである。

「神教の「神」というキャラクター」

信者の方が居れば申し訳ないが、「エホバの証人」と言うキリスト教系新興宗教団体がある。寄付金返還訴訟がいくつも提起されているので、統一教会と同様に左翼系弁護士組織から嫌われている団体であることは確かだろう。そのエホバの証人は「ものみの塔」と言う広報冊子を発行しているが、そこで面白い特集をしている。

自分たちが信仰の対象としている神様について、そのキャラクターを解説しているのだ。神様について「語るな」と言う宗派や団体が多い中で、「自分たちが拝んでいる神様とはこのようなキャラクターです」と説明し、特徴や能力などの設定を説明しているのだ。

まず名前。「私はエホバ、それが私の名」と有り、説明として「多くの聖書翻訳では神様の名前は殆ど使われず、『主』と言う称号に置き換えられています。しかし聖書の原文には神様の名前が七千回ほど出てきます。その名前はヘブライ語からなり、アルファベットにすればYHWHあるいはJHWHになります。日本語にすれば一般にエホバと訳されます」となっている。エホバは名前を自分で名乗ったそうだ。「全能者」「父」「主」「神」などと称号ではなく、名前で呼んでほしいそうだ。



性格は、神様と親しくなれば分かるそうだが、「力、知恵、公正、愛」と言う四つの際立った特質

儒教が日本に与えた影響

儒教と言えば孔子の論語が知られているが、実際に勉強した人は少ないだろう。だが日本人が道徳的に影響を受けたのは、誰に言わせても儒教がトップの地位を誇るだろう。日本人においては、儒教とは道徳なのである。

儒教は紀元前六世紀の生まれで、三世紀には日本へ伝えられていたと言われており、仏教よりも古いとされている。庶民などへは知らせることなく、尊い思想であるために「尊い人だけのもの」だったと言われている。古事記からの考え方に儒教は織り込まれ、振り分けて区別しにくいほどに同化している。日本の価値観の根幹を作っている考え方だと言っても、決して過言ではない。

まず孔子が唱えた重要な儒教精神は、仁義礼智

性を持つていとされている。

そんな神様の仕事と言えば、「全てのものを人間の為に作った」「聖書を与えた」「自分の子であるキリストに人類救済と解放をさせた」と言う実績をアピールしているが、具体的な仕事や活動については記載が無い。

そして神様の公約として、現状の問題に対処することを約束していると書かれている。それによれば、「全ての悪を終わらせる」「地球をパラダイスに変える」「病氣と死が無くなる」「永遠を確立する」などとしているが、スーパーパワーとしても盛りすぎな気がする。ちよつとキャラクターの能力や必殺技について欲張りすぎているようだが、これは倒すべき敵の能力をどのようにに規定するかによって変化するか、あなたがチンチキとは言えない。

ウルトラマンなら、地球では三分間だけしか活動できないとか、ドラえもんは寝ている時にネズミに耳を食べられたからネズミが怖いとか、素浪人月影兵庫は猫が怖いとか、何でも人気キャラクターはスーパーパワーの裏返しとしてウィークポイントを持っているものだ。エホバの証人の神様のキャラクターにはウィークポイントが明確に出されていないので、余り人気は出ないような気がする。繰り返すが、信者の方がいればお許し願いたい。

信と言う「五常」であり、それを心掛けて実践すれば聖人に近づくと言う道徳である。五常を備えた人を「徳のある人」と呼んで、高貴な人の本質だとした。天皇の統治者・為政者としての心得は、この五常に強く影響を受けていると言える。

理想の君主が天皇であると言うことは、その精神を尊いとする考え方があつた。つまり儒教精神と矛盾は有り得ないことになる。天皇統治とは、儒教精神を体現することにあるのだろう。

大陸が宋の時代になると儒教に朱子学が生まれ、統治者・為政者の側に立つ「ネオ儒教」が大陸、半島、そして日本を覆うことになる。この頃には、どこも中央政府が官僚制度を確立しており、孔子より朱熹の思想を有難がった。官僚制も武士道も、

同じところから生まれている。日本でも、公家や武士は盛んに朱子学を取り入れた思想を展開し、孔子の仁義礼智信の五常に忠孝をプラスした七常を尊い心得とするようになった。

徳川幕府が安定を生み出した江戸時代、幕府は武士だけでなく町民にも儒教精神を推奨した。これによって「七常」の仁義忠孝礼智信は理想の道徳となった。この時代、仏教道徳の専売特許だった「勧善懲悪」は、江戸の道徳として広く定着を見せている。

圧倒的多数の国民が「善」と認める価値観は、そのまま天皇に対する理想形として映し出されることになり、道徳的（儒教的）な君主像を天皇に求め、その精神を尊いとして受け入れることを国民の義務と考えるようになったのである。



仏教が飛鳥奈良政権の中核的価値観だった頃にも、その仏教思想の中に儒教は織り込まれていたそうである。仏教の教えが貴族の独占的に押さえる価値観だったことを考えると、飛鳥奈良政権で混合された仏教と儒教の考え方が「丁度良いブレンド」になって、飲みやすい味になってから庶民の口に入ってきたと言えるだろう。神道の価値観も、古事記の物語の重要部分は仏教に織り込まれ、矛盾なくブレンドされたものが庶民の口に入ってきたのである。日本仏教の独特の作法は、古事記由

ED（勃起不全）の改善とは

病院の待合室には「元氣読本」と言う月刊誌が置かれているが、その一月号の特集を読んだ。

勃起を最後まで維持する、医学的に実証された改善術——と題してED（勃起不全）の改善を提案している。一般的に言われる食習慣の見直しやストレス解消などは、EDの治療である「PDE5の抑制」に直接は結びつかない。

昨年の調査では、日本人男性の三割がEDの初期あるいは中期の症状があるようだ。勃起が持続される時間は、十分が合格ラインとされている。これは勃起維持の為に「血管拡張物質」が放出されていることでの現象だ。興奮が冷めると「PDE5」と言う物質が放出され、陰茎に流れ込んだ血液を「血管拡張物質を破壊する」ことで萎えさせるのである。

血管拡張物質とPDE5のどちらが優位になるかと言うものだが、勃起があるならPDE5を抑制する薬を使用することによってEDは改善できる。

このPDE5を抑制する成分を大量に含む天然素材として、黒生姜とか黒ウコンと呼ばれているタイ

来が案外多いものである。

男系、一家、家父長制、長幼の序、礼節、などの日本人が大好きな価値観は儒教から届けられた贈り物だったのである。武士がそれらを尊び、武士道が廃れる幕末には任侠が登場し、表社会から捨てられた人が密かに心に刻む精神に変化して行く。

当初の儒教が天皇の精神性に与えた影響は、幕末からはヤクザの求める精神性に変わって行くのだが、その本質はいずれも「孔子の求めた姿」だったことを忘れてはならない。

孔子の「二十四孝」の中に孟宗の話がある。死の床にあった母親が、真冬に荀が食べたいと言い出して、親孝行な孟宗が雪の中で竹林を彷徨っていると、その親孝行を認めた天の神々が孟宗の為にすぐに育つ荀を授けた。雪を割って荀はいくつも顔を出し、孟宗は死ぬ前の母親に最後の孝行をするのである。節が短くすぐ育つ孟宗竹の物語である。母親が大陸で最初の葬儀屋の組合をしていた孔子は、世間で誰もが知る親孝行な息子だったそうで、「五常」の根本には「情」があると誰もが行間を読んで感動したのである。こうして、孔子の精神は儒教・論語だけでなく、神道にも仏教にも大きな影響を与えている。

現在の我々日本人が、良いと考える価値観の根底に儒教が如何に影響を与えているか、今一度考えたいものである。

原産の「クラチャイダム」というものが宣伝されている。この成分は、バイアグラとかシアリスなどにも活用される「PDE5阻害薬」である。天然素材だから副作用の心配が少ないと言う点も良く、「クラチャイダム」をED治療薬として考えることが重要になって来るそうだ。

自分の意志でPDE5を放出して勃起を鎮めると言うヨガ的な修行もあると聞いたことがあるが、世間の悩みは逆のEDなのだから、自分の意志で「血管拡張物質の放出」を可能にする修行の方が流行しそうだ。

地方事務局活動報告

■関西事務局

◇二月二十一日(金)・二十二日(土)

・名誉顧問嶋田徳一先生ご逝去にともない、京都市伏見区「いまそう墨染会館」に於いてお通夜。阿部一雄顧問が参列。翌日、同所にて家族葬。喪主は嶋田先生の長女丸田みよ様。阿部一雄顧問、谷田透副党首が参列。加えて維新政党・新風代表 魚谷哲央氏 が来駕され、共にお見送り申し上げた。